

医療創生大学 法人部門 中期計画実施工程表

- 重点課題Ⅰ：経営の安定
重点課題Ⅱ：管理運営の強化

戦略	取組項目		実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容／数値目標	重点事項	2022(令和4)年度	令和4年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2023(令和5)年度	令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2024(令和6)年度	令和6年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画
		担当部署						目標と実績			目標と実績			目標と実績		
戦略Ⅰ	財務状況	法人	中期財務工程表をもとに評価し、5年後までに収支均衡させる	・前年度の支出を分析し、当年度の支出の抑制を図る	・理事会	経常収支差額比率 (経常収支差額/経常収入)	◎	(目標) ▲14%	経常収支差額比率は数値目標を達成して適切である。人件費比率は数値目標を超えており不適切である。 自己点検により経常収支に焦点を充てることは、今後の就学支援補助金要件を満たす為にも必要である。	就学支援補助金の要件達成の為、下記の項目について改善を図りたい。 「経常収支差額」:5年後にプラスにする。 「運用資産－外部負債」:運用資産は外部負債を超えないこととする。	(目標) ▲9%	経常収支差額比率及び人件費比率は数値目標を超えており未達成である。 自己点検により経常収支に焦点を充てることは、今後の修学支援補助金要件を満たす為にも必要である。	修学支援補助金の要件達成の為、下記の項目について改善を図りたい。 「経常収支差額」:4年後にプラスにする。 「運用資産－外部負債」:運用資産は外部負債を超えないこととする。	(目標) ▲3%	経常収支差額比率及び人件費比率は数値目標を達成した。 自己点検により経常収支に焦点を充てることは、今後の修学支援補助金要件を満たす為にも必要である。	修学支援補助金の要件達成の為、下記の項目について改善を図りたい。 「経常収支差額」をプラスで継続する。 「運用資産－外部負債」:運用資産は外部負債を超えないこととする。
								(実績) ▲12.4%			(実績) ▲12.2%			(実績) 0.6%		
						人件費比率 (人件費/経常収入)		(目標) 53%			(目標) 52%			(目標) 51%		
								(実績) 54.8%			(実績) 55.6%			(実績) 48.9%		
戦略Ⅱ	管理・運営	法人	主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤と、時代の変化に対応する大学づくりを進める。	ガバナンスコードの遵守状況を可視化し、運営の適切化を進める。	・理事会	ガバナンスコード チェックリスト点数	◎	(目標) 50点(%)	ガバナンスコード点検項目263項目のうち、247項目を達成した。令和3年度時の未達成項目のうち、改善が可能なものから取り組み、7項目を改善し適切に取り組んだと考えている。	「△(一部未達成)」が12項目、「×(未達成)」が4項目となっている。次年度は3つの項目について改善するように取り組む。 (理事会の議決事項の明確化、理事及び大学運営責任者の業務執行の監督、海外の協定校及び海外派遣学生数)	(目標) 55点(%)	ガバナンスコードの277項目のうち、チェック対象項目は263項目であり、そのうち達成できている項目(○)は249項目(94.7%)、一部未達成(△)の項目は10項目(3.8%)、未達成(×)の項目は4項目(1.5%)である。当初の数値目標の55点(%)に対して、94.7%の達成率である。	引き続き、未達成(一部未達成)の項目の改善に取り組むことは当然であるが、私学法の改正に伴い、ガバナンスコード自体の見直し、点検も行う必要がある。	(目標) 60%	現行のガバナンスコードチェック対象項目は263項目であり、そのうち達成できている項目は249項目(94.7%)、一部未達成の項目は10項目(3.8%)、未達成の項目は4項目(1.5%)である。60%の数値目標に対して、94.7%の達成率であり、評価できる。	私立学校法の改正に伴い、私立大学協会より示されている「私立大学ガバナンス・コード<第2.0版>」に基づき、2025年度のガバナンスコードの策定に取り組む予定である。
								(実績) 94点(%)			(実績) 94.7点(%)			(実績) 94.7%		

学校法人医療創生大学 柏キャンパス 中期計画実施工程表

重点課題Ⅰ：教育の質保証
重点課題Ⅱ：満足度向上
重点課題Ⅲ：社会的評価の向上

戦略	取組項目	担当部署	実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容／数値目標	重点事項	2022(令和4)年度					令和4年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2023(令和5)年度					令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2024(令和6)年度					令和6年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画
								4月	7月	10月	1月	4月			7月	10月	1月	4月	7月			10月	1月					
戦略Ⅰ	(1)教育課程と学修成果	・学部	・国家試験合格に向けた学力の担保	・年間の各単位において、国家試験対策定期目標指数「成績基準・試験」(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度などを検証し、学修成果を学生が可視化できる取組を目指す。	・副学長 ・学部長 ・教務学生課長	学修行動調査 (授業時間以外の学修時間)	◎	目標：10時間以上/1週間 実績：約7時間/週	国家試験対策の模擬試験は各学年とも2回実施した。模擬試験の低学力層に対して、積極的な学修支援を実施した。1学期(週)目の割合で継続した学生の模擬試験成績は上昇傾向にあり、前期科目で再試験や未習得科目があった学生も後期科目は再試験が通り、未習得科目がなくなってきた。 ・留年率4%以内、離籍率3%以内に達成できたが低学力層は一定数存在している。	今後は、2022年度の取り組み結果を踏まえ、学習支援体制を構築していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。	目標：10時間以上/1週間 実績：約7時間/週	目標：設置中 実績：—	目標：2ヶ所 実績：2ヶ所	目標：4%未満 実績：3.0%	目標：設置中 実績：—	今後は、2023年度の取り組み結果を踏まえ、学習支援体制を構築していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。少し時間がかかっても看護職を目指す学生もみられるため、保護者とも連携し休学中に学習継続の気持ちが続けられることのないよう支援が必要である。	目標：10時間以上/1週間 実績：約20時間/週	目標：100% 実績：98.8%	目標：3ヶ所 実績：1か所	目標：4%未満 実績：8%	目標：100% 実績：69%	学修行動調査では、全学年平均20時間であった。学習場所の確保が課題となっている。国際交流拠点は、実習先であるタイ王国ランバン県総合病院との提携を進めている。留年率は0%。留年者数24名(1年生4名、2年生17名、3年生3名)であった。2年生の割合が高いのは、本格的に専門科目の学習が始まるために科目修得が困難な学生が多かった。国家試験合格率は81名が受験し72名が合格した。合格率は89%であった。国際交流拠点に向け一層の工夫が必要である。	学習場所の支援については、教室や図書館などの学内での学習環境を整備し、自己学習の場を提供していく。就職先決定するタイ王国ランバン県総合病院との提携を進めている。来年度の受験に向けた支援を行う予定である。国際交流拠点は、海外の実習病院をベースに交流を深める予定である。留年率の高い2学年については、専門科目のチューターを中心とした学習支援体制を設計している。国家試験の支援策については、チューターを中心に自己学習を支援する環境づくりを検討していく。					
			・教育の質を保証する体制(サイクル)の確立	・国際関連の大型資金の確保		・外部研究費の獲得 ・競争的資金の採択	・申請説明会等を実施する。 ・組織的に申請書チェックを行う。	・研究業績を年度更新しガールンへ保管する。	・外部資金獲得件数	◎	目標：3件 実績：2件	外部資金獲得は、科学研究費(代表)4件の新規採択、継続中のもは5件であった。助成金等の採択は2件(学術資金1件、企業資金1件)あった。研究業績の提出は100%であった。科研費採択率は57%であった。科研費採択率は35%であった。	外部資金を未申請の教員が複数人いるので全員の応募を促す。教員評価に15%より重くつけを現状の15%より重くし、大型資金獲得者にはインセンティブを与えるような仕組みづくりが必要である。	目標：3件以上 実績：4	目標：100% 実績：100%	目標：30% 実績：38%	目標：3件以上 実績：4(新規)	目標：100% 実績：100%	目標：30% 実績：40%(4/10)	科学研究費の申請件数は10件で35%の教員が申請した。そのうち採択は4件であった。採択率は40%で目標値を超えた。代表者としての継続は7件である。研究業績は教員評価票にて把握しており、全員が提出しており目標値(100%)を達成した。	研究業績は、研究業績を書いている教員は科学研究費の採択と連動している。一方で研究業績の教員に関しては外部資金の獲得もほとんどない。研究業績の指導が必要である。科学研究費は、全ての教員がエントリーし、採択に繋がりを仕組みづくりを企画していく。							
			・施設修繕計画に則り教育に支障のない適切な整備を進める。	・無線LAN等のネットワーク ・学外接続ネットワーク環境の充実 ・施設・設備の維持管理		・教務学生課長 ・総務課長	・ネットワーク・無線LANの整備状況に関する満足度調査	◎	目標：70% 実績：67.3%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：70% 実績：70%	無線LAN稼働に大きな問題は生じていない。今後はセキュリティ対策にも力を入れながら、安全に学習できるようなネットワーク環境を構築していく。	ネットワーク環境の充実は学習にとって必須である。今年度後半からいっきキャンパスのサーバーに一元化し、2023年から実施した。一元化による障害は特になじっていない。	目標：70% 実績：70%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	ネットワークの整備状況に関する満足度は、Wi-Fiの通信環境の改善に関する項目では1年生においては、70%を超える満足度であったが、学年が進むごとに満足度は低くなり、2年では63%、3年生に至っては43%の満足度となっている。全学年では%の満足となっている。	ITシステムの稼働については、全学年が揃っても特に問題なく100%稼働している。引き続き問題が発生しないよう機器の維持管理に努める。周辺機器の問題に関しては、高学年の学生たちの要望を具体的に把握し、可能な範囲での対応を検討していく予定である。							
			・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する。	・教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施 ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施 ・各学部・学科に基づく支援の検討、運営改善、教育指導		・副学長 ・学部長 ・教務学生課長	・学生満足度調査	◎	目標：100% 実績：70%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	離籍率は4% (4/165名)であった。保護者との連携をとりながら審判の定期アンケート面談を実施し、学生の心理面への調査検討、および実施。保護者と成績共有、支援策を指導する状況を共有し学習意欲を向上させた。 ・保護者の学生の成績情報や前回の保護者面談の案内を配布し、チューターとの個別面談を実施した。	学生の満足度は、平均70%は超えているが、施設設備については一部低い結果となっているため、今後の改善に向けた検討が必要であるとともに、学生への回答も必要となる。	目標：100% 実績：70%	目標：100% 実績：100%	目標：2%未満 実績：5.7%	目標：100% 実績：54%	目標：100% 実績：100%	目標：2%未満 実績：3.7%	学生生活満足度調査の質問項目の調査を行った。学生の満足度は86.9%の学生が満足と回答したが回収率の低さが課題。柏キャンパスではiK-Port(学生ポータルサイト)を通じて、学生生活支援に関する情報を発信し、学生生活支援に関する教員と保護者との連携を深める必要がある。	学生生活満足度から学生生活全般についての満足度は87.0%であった。12%が不満としており不満足因の解消に努めたい。学生のポータルサイトの目的を刷新したうえで、多くの学生が活用できるように通知する。離籍率は1年生7.2%、2年生6.9%と低学年で高い。3・4年生67名、3年生の離籍率は2022年度より減少した。低学年への就学サポートをチューターを中心に実施し保護者との連携も深めていく必要がある。						
戦略Ⅱ	(3)研究活動	・学部 ・研究科 ・教務学生課	・調査結果を活かした環境改善、各種支援の強化等により、学生満足度70%を達成する。	・教職協働、学部横断による学生満足度調査の実施 ・検討された支援方策や改善内容について、学生に向けた適切な情報の公表 ・学生の心理面への調査検討、および実施 ・各学部・学科に基づく支援の検討、運営改善、教育指導	・副学長 ・学部長 ・教務学生課長	・学生満足度調査	◎	目標：100% 実績：70%	離籍率は4% (4/165名)であった。保護者との連携をとりながら審判の定期アンケート面談を実施し、学生の心理面への調査検討、および実施。保護者と成績共有、支援策を指導する状況を共有し学習意欲を向上させた。 ・保護者の学生の成績情報や前回の保護者面談の案内を配布し、チューターとの個別面談を実施した。	学生の満足度は、平均70%は超えているが、施設設備については一部低い結果となっているため、今後の改善に向けた検討が必要であるとともに、学生への回答も必要となる。	目標：100% 実績：70%	目標：100% 実績：100%	目標：2%未満 実績：5.7%	目標：100% 実績：54%	目標：100% 実績：100%	目標：2%未満 実績：3.7%	学生生活満足度調査の質問項目の調査を行った。学生の満足度は86.9%の学生が満足と回答したが回収率の低さが課題。柏キャンパスではiK-Port(学生ポータルサイト)を通じて、学生生活支援に関する情報を発信し、学生生活支援に関する教員と保護者との連携を深める必要がある。	学生生活満足度から学生生活全般についての満足度は87.0%であった。12%が不満としており不満足因の解消に努めたい。学生のポータルサイトの目的を刷新したうえで、多くの学生が活用できるように通知する。離籍率は1年生7.2%、2年生6.9%と低学年で高い。3・4年生67名、3年生の離籍率は2022年度より減少した。低学年への就学サポートをチューターを中心に実施し保護者との連携も深めていく必要がある。										
			・学修行動調査(授業時間以外の学修時間)	◎		目標：10時間以上/1週間 実績：約7時間/週	国家試験対策の模擬試験は各学年とも2回実施した。模擬試験の低学力層に対して、積極的な学修支援を実施した。1学期(週)目の割合で継続した学生の模擬試験成績は上昇傾向にあり、前期科目で再試験や未習得科目があった学生も後期科目は再試験が通り、未習得科目がなくなってきた。 ・留年率4%以内、離籍率3%以内に達成できたが低学力層は一定数存在している。	今後は、2022年度の取り組み結果を踏まえ、学習支援体制を構築していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。	目標：10時間以上/1週間 実績：約7時間/週	目標：設置中 実績：—	目標：2ヶ所 実績：2ヶ所	目標：4%未満 実績：3.0%	目標：設置中 実績：—	今後は、2023年度の取り組み結果を踏まえ、学習支援体制を構築していく。同時に低学力層に対してはチューター制度の強化を図るとともに、留年や離籍にかかわる学生に対しては、保護者との連携を密にしながら支援体制を強化・構築していく。少し時間がかかっても看護職を目指す学生もみられるため、保護者とも連携し休学中に学習継続の気持ちが続けられることのないよう支援が必要である。	目標：10時間以上/1週間 実績：約20時間/週	目標：100% 実績：98.8%	目標：3ヶ所 実績：1か所	目標：4%未満 実績：8%	目標：100% 実績：69%	学修行動調査では、全学年平均20時間であった。学習場所の確保が課題となっている。国際交流拠点は、実習先であるタイ王国ランバン県総合病院との提携を進めている。留年率は0%。留年者数24名(1年生4名、2年生17名、3年生3名)であった。2年生の割合が高いのは、本格的に専門科目の学習が始まるために科目修得が困難な学生が多かった。国家試験合格率は81名が受験し72名が合格した。合格率は89%であった。国際交流拠点に向け一層の工夫が必要である。	学習場所の支援については、教室や図書館などの学内での学習環境を整備し、自己学習の場を提供していく。就職先決定するタイ王国ランバン県総合病院との提携を進めている。来年度の受験に向けた支援を行う予定である。国際交流拠点は、海外の実習病院をベースに交流を深める予定である。留年率の高い2学年については、専門科目のチューターを中心とした学習支援体制を設計している。国家試験の支援策については、チューターを中心に自己学習を支援する環境づくりを検討していく。							
			・教育の質を保証する体制(サイクル)の確立	・国際関連の大型資金の確保		・外部研究費の獲得 ・競争的資金の採択	・申請説明会等を実施する。 ・組織的に申請書チェックを行う。	・研究業績を年度更新しガールンへ保管する。	・外部資金獲得件数	◎	目標：3件 実績：2件	外部資金獲得は、科学研究費(代表)4件の新規採択、継続中のもは5件であった。助成金等の採択は2件(学術資金1件、企業資金1件)あった。研究業績の提出は100%であった。科研費採択率は57%であった。科研費採択率は35%であった。	外部資金を未申請の教員が複数人いるので全員の応募を促す。教員評価に15%より重くつけを現状の15%より重くし、大型資金獲得者にはインセンティブを与えるような仕組みづくりが必要である。	目標：3件以上 実績：4	目標：100% 実績：100%	目標：30% 実績：38%	目標：3件以上 実績：4(新規)	目標：100% 実績：100%	目標：30% 実績：40%(4/10)	科学研究費の申請件数は10件で35%の教員が申請した。そのうち採択は4件であった。採択率は40%で目標値を超えた。代表者としての継続は7件である。研究業績は教員評価票にて把握しており、全員が提出しており目標値(100%)を達成した。	研究業績は、研究業績を書いている教員は科学研究費の採択と連動している。一方で研究業績の教員に関しては外部資金の獲得もほとんどない。研究業績の指導が必要である。科学研究費は、全ての教員がエントリーし、採択に繋がりを仕組みづくりを企画していく。							
			・施設修繕計画に則り教育に支障のない適切な整備を進める。	・無線LAN等のネットワーク ・学外接続ネットワーク環境の充実 ・施設・設備の維持管理		・教務学生課長 ・総務課長	・ネットワーク・無線LANの整備状況に関する満足度調査	◎	目標：70% 実績：67.3%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：70% 実績：70%	無線LAN稼働に大きな問題は生じていない。今後はセキュリティ対策にも力を入れながら、安全に学習できるようなネットワーク環境を構築していく。	ネットワーク環境の充実は学習にとって必須である。今年度後半からいっきキャンパスのサーバーに一元化し、2023年から実施した。一元化による障害は特になじっていない。	目標：70% 実績：70%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	目標：100% 実績：100%	ネットワークの整備状況に関する満足度は、Wi-Fiの通信環境の改善に関する項目では1年生においては、70%を超える満足度であったが、学年が進むごとに満足度は低くなり、2年では63%、3年生に至っては43%の満足度となっている。全学年では%の満足となっている。	ITシステムの稼働については、全学年が揃っても特に問題なく100%稼働している。引き続き問題が発生しないよう機器の維持管理に努める。周辺機器の問題に関しては、高学年の学生たちの要望を具体的に把握し、可能な範囲での対応を検討していく予定である。							
戦略Ⅲ	(6)学生支援計画	・学部 ・教務学生課	・入学定員充足率を100%にする。構造的に志願率、合格率、歩留率を設定する。今後、18歳人口が減少していくことから、県外からの入学者数を増やす。	・広報利用媒体の充実(WEB版のオープンキャンパス等) ・対面広報(オープンキャンパス、高校ガイダンス、進学ガイダンス、高校訪問、高大連携、中学進向けガイダンス)	・学部長 ・教務学生課長	・入学定員充足率	◎	目標：100% 実績：104%	オープンキャンパスは昨年度より来場者数は増えており広報活動の効果を確認できる結果であった。大学説明会は49件に参加していた。高校訪問は千葉東部、東京圏内を中心に実施した。柏キャンパスの図書館ホームページのリニューアルに加え、学部ホームページの全面的リニューアルに着手した。令和5年度入学者は83名であった。定員充足率100%を超える結果となった。	さらに積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画するようにしていきたい。ホームページのリニューアルを開始したが、作業の進捗が遅れている。今後のホームページ情報とデータベースの入れ替え作業が本格化するため、いっきキャンパスのより一層の連携が求められる。	目標：100% 実績：86%	目標：2倍 実績：1.35倍	目標：2倍 実績：1.09倍	目標：40%以上 実績：74%	目標：40%以上 実績：56%	オープンキャンパスを本年度に回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画がある。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。 2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で67名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人への確保が課題である。	目標：100% 実績：104%	目標：2倍 実績：2.2倍	目標：2倍 実績：1.6倍	目標：40%以上 実績：64%	目標：40%以上 実績：60%	2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標を達成した。 2025年の志願者は177名、受験者は165名、合格者29名、辞退者1名、入学者83名で、合格率以上の項目は数値目標を達成した。	今後も数値目標の達成はもちろん、さらに志願率・合格率を高めたい。また、多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保していく。					
			・志願倍率	◎		目標：1.55倍 実績：1.55倍	オープンキャンパスは昨年度より来場者数は増えており広報活動の効果を確認できる結果であった。大学説明会は49件に参加していた。高校訪問は千葉東部、東京圏内を中心に実施した。柏キャンパスの図書館ホームページのリニューアルに加え、学部ホームページの全面的リニューアルに着手した。令和5年度入学者は83名であった。定員充足率100%を超える結果となった。	さらに積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画するようにしていきたい。ホームページのリニューアルを開始したが、作業の進捗が遅れている。今後のホームページ情報とデータベースの入れ替え作業が本格化するため、いっきキャンパスのより一層の連携が求められる。	目標：1.35倍 実績：1.35倍	目標：2倍 実績：1.09倍	目標：40%以上 実績：74%	目標：40%以上 実績：56%	オープンキャンパスを本年度に回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画がある。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。 2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で67名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人への確保が課題である。	目標：2.2倍 実績：2.2倍	目標：2倍 実績：1.6倍	目標：40%以上 実績：64%	目標：40%以上 実績：60%	2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標を達成した。 2025年の志願者は177名、受験者は165名、合格者29名、辞退者1名、入学者83名で、合格率以上の項目は数値目標を達成した。	今後も数値目標の達成はもちろん、さらに志願率・合格率を高めたい。また、多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保していく。									
			・合格率	◎		目標：92.4% 実績：92.4%	オープンキャンパスは昨年度より来場者数は増えており広報活動の効果を確認できる結果であった。大学説明会は49件に参加していた。高校訪問は千葉東部、東京圏内を中心に実施した。柏キャンパスの図書館ホームページのリニューアルに加え、学部ホームページの全面的リニューアルに着手した。令和5年度入学者は83名であった。定員充足率100%を超える結果となった。	さらに積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画するようにしていきたい。ホームページのリニューアルを開始したが、作業の進捗が遅れている。今後のホームページ情報とデータベースの入れ替え作業が本格化するため、いっきキャンパスのより一層の連携が求められる。	目標：92.4% 実績：92.4%	目標：2倍 実績：1.09倍	目標：40%以上 実績：74%	目標：40%以上 実績：56%	オープンキャンパスを本年度に回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画がある。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。 2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で67名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人への確保が課題である。	目標：1.6倍 実績：1.6倍	目標：40%以上 実績：64%	目標：40%以上 実績：60%	2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標を達成した。 2025年の志願者は177名、受験者は165名、合格者29名、辞退者1名、入学者83名で、合格率以上の項目は数値目標を達成した。	今後も数値目標の達成はもちろん、さらに志願率・合格率を高めたい。また、多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保していく。										
			・歩留率	◎		目標：40% 実績：75.4%	オープンキャンパスは昨年度より来場者数は増えており広報活動の効果を確認できる結果であった。大学説明会は49件に参加していた。高校訪問は千葉東部、東京圏内を中心に実施した。柏キャンパスの図書館ホームページのリニューアルに加え、学部ホームページの全面的リニューアルに着手した。令和5年度入学者は83名であった。定員充足率100%を超える結果となった。	さらに積極的な入試広報活動によって本学部の魅力を伝えることができるよう、魅力的なオープンキャンパスを企画するようにしていきたい。ホームページのリニューアルを開始したが、作業の進捗が遅れている。今後のホームページ情報とデータベースの入れ替え作業が本格化するため、いっきキャンパスのより一層の連携が求められる。	目標：40% 実績：75.4%	目標：2倍 実績：1.09倍	目標：40%以上 実績：74%	目標：40%以上 実績：56%	オープンキャンパスを本年度に回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画がある。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。 2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で67名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人への確保が課題である。	目標：74% 実績：74%	目標：40%以上 実績：56%	目標：40%以上 実績：56%	オープンキャンパスを本年度に回実施し、高校訪問なども積極的に実施し、受験者は確保できた。今後も本学部の魅力をより一層の広報活動を実施していく計画がある。ホームページやSNSを効果的に活用し、幅広い地域からの学生募集活動を進める必要がある。 2月の入試を終えた時点で合格者は93名であった。入学時点で67名(充足率：86%)となり辞退者が多くみられた。今後、より多くの受験生が受験機会を得られるように入試日程などを検討していく。とくに社会人への確保が課題である。	目標：60% 実績：60%	目標：40%以上 実績：64%	目標：40%以上 実績：60%	2025年4月の入学者数は83名で定員充足率は104%で数値目標を達成した。 2025年の志願者は177名、受験者は165名、合格者29名、辞退者1名、入学者83名で、合格率以上の項目は数値目標を達成した。	今後も数値目標の達成はもちろん、さらに志願率・合格率を高めたい。また、多くの受験生が受験機会を得られるように、入試日程を今年同様に確保していく。						
戦略Ⅲ	(7)社会貢献	・学部 看護キャリア研究センター ・総務課	・医療施設(看護職)・地域(看護)活動に資する教育訓練の実施、支援を通じて、医療従事者(国際看護学部)の社会的プレゼンス向上を図る。	・広報・外部連携体制の整備(HP、相談窓口など) ・医療機関(看護職)の教育・研究にかかわる情報利用支援 ・大学・地域行政機関・医療施設(看護学部)の社会的プレゼンス向上を図る	・副学長 ・学部長 ・看護キャリア研究センター長 ・総務課	・情報利用支援にかかわる講習会実施	◎	目標：1件 実績：2件	ホームページのコンテンツ、チラシの制作を決定し業者に制作を依頼した。今後、国際看護学部HPと合わせて作成し公開する。国際看護学部の教育カリキュラム資料をウェブサイトに掲載し、本学・民間関連機関との連携を支援していく。	今後は、自治体および外部機関との連携を図る。また、本学・民間関連機関との連携を図る。また、本学。																		

医療創生大学いわきキャンパス 中期計画実施工程表

重点課題Ⅰ：教育の質保証

重点課題Ⅱ：満足度向上

重点課題Ⅲ：社会的評価の向上

戦略	取組項目	対応部局	実施目標	実施計画	実施責任者	取組内容／数値目標	重点事項	報告月 実施報告担当部局	2022(令和4)年度		令和4年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2023(令和5)年度		令和5年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画	2024(令和6)年度		令和6年度までの進捗状況 (自己評価含む)	今後の計画		
									目標と実績				目標と実績				目標と実績					
戦略Ⅰ	(1) 教育課程と学修成果	・学部 ・研究科 ・教務学生課 ・教務委員会 ・FD・SD委員会	・大学の理念・目的を実現するための、学修成果の可視化を通してポリシーの評価検証を行う。 ・質保証サイクルを実質化する	・学部、学年、年間の各単位において、「成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、学生の学習到達度」であるディプロマポリシーの達成度を検証し、学修成果が学生が可視化できる取組を目指していくこととする。 ・達成度評価の基づき、FD・SD研修を実施し改善に努める。	学長代行	学修行動調査 (授業時間以外の学修時間)	◎	11月	教務委員会	(目標) 11時間以上 78% (実績) 15.6%	学修行動調査の取組、対象学年を更直し、学修実態の把握と学生の回答し易さを考慮して検討・実施した。履修している授業の学部・年度、課題の学習時間とそれ以外の学修時間を別開とし、各学部の分析結果を基に学修成果の可視化につなげることを目的に設定したものである。授業時間以外の学習時間11時間以上の割合は15.6%で、目標値の78%を達成することはできなかったが、学修成果を学生自身が認識できる仕組みを構築する基礎データを得ることが出来た。	学修成果の可視化に向け、得られた基礎データを基にシステムの導入に検討する。目標値を達成するため、学修行動調査の結果に基づき、FDおよびSD研修を実施する。	(目標) 11時間以上 80% (実績) 15.28%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化できるように設定している観点別(知識・技能、思考力・判断力、関心・意欲・態度)に関する内容を実施し、教職員に成績評価の目的・意義、ルーブリック評価書の作成・活用に関する知識の醸成を図った。	令和5年度に導入したシステム(シグナル)を活用し学生が学修成果を可視化できるようにするため、大学が設定している観点別(知識・技能、思考力・判断力、関心・意欲・態度)に関する内容を実施し、教職員に成績評価の目的・意義、ルーブリック評価書の作成・活用に関する知識の醸成を図った。	(目標) 11時間以上 81% (実績) 15.88%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	令和5年度に導入した学修成果可視化システム(あおい)について、初年度教育科目での利用を想定し、仕組みの確認と、教職員への利用講習会を実施する計画である。	(目標) 100% (実績) 99.1%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	令和5年度に導入した学修成果可視化システム(あおい)について、初年度教育科目での利用を想定し、仕組みの確認と、教職員への利用講習会を実施する計画である。	(目標) 100% (実績) 99.6%
								翌年度4月	FD・SD委員会	(目標) 100% (実績) 98.3%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 100% (実績) 99.6%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 100% (実績) 99.6%						
								翌年度4月	FD・SD委員会	(目標) 5.5% (実績) 6.8%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 5.4% (実績) 6.8%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 5.4% (実績) 6.8%						
								翌年度4月	FD・SD委員会	(目標) 100% (実績) 87.3%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 100% (実績) 87.3%	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	・成績基準・試験、(模試)成績、授業評価の妥当性、ディプロマポリシーの達成度を検証すること。及び学生が学修成果を可視化するためのシステムを導入し、データの整備を行った。また、本システムの受容を「あおい」と称することとした。 ・FDは「本学における学修成果の可視化ツールの活用方法」に関する内容を実施し、教職員に教育の質保証に対する社会情勢の理解、導入の目的、ツールの活用方法などに関する知識の醸成を図った。SDは「性別違和を抱える学生への対応」に関する内容を実施。教職員に多様な学生のそれぞれの辛さを理解し、認め、適切な「配慮」と「支援(行動)」が行える知識の醸成を図った。	(目標) 100% (実績) 87.3%						
戦略Ⅰ	(3) 研究活動	・学部	・外部研究費の獲得 ・競争的資金の採択	・申請説明会等を実施する。 ・組織的に申請書チェックを行う。 ・研究業績を年度更新しガールーンへ保管する。	学部長	外部資金獲得件数	◎	翌年度4月	総務課	(目標) 5件 (実績) 2件	研究業績の管理は毎年100%を達成した。【外部研究費の獲得】①研究費公費情報の収集。②研究費公費案内をGaroonで周知し申請を促す。 【競争的資金の採択】①申請書の書き方説明会を開催。②科研費申請アドバイザーによる個別相談と申請者の個別レクチャーを実施。	研究業績データの運用方法を検討する。	(目標) 5件 (実績) 5件	・研究業績管理の作成について、1月10日(日)にいわきキャンパスの教職員へ通知し68%の教職員が業績管理ファイルに業績を格納した。	・各個人の主な研究業績は、常に大学のホームページで公開し管理されており、研究業績管理として別冊のファイルを作成することは教員の負担であったため、負担軽減を目的として、学部長、研究科長の意見を踏まえた上で、令和7年度以降は別冊の研究業績管理を実施しないこととした。	(目標) 7件 (実績) 8件	・外部研究費の公費案内を教員へ随時周知した結果、外部研究費を8件獲得した。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	(目標) 7件 (実績) 8件	
								7月	教務学生課	(目標) 100% (実績) 100%	・研究業績の管理は毎年100%を達成した。【外部研究費の獲得】①研究費公費情報の収集。②研究費公費案内をGaroonで周知し申請を促す。 【競争的資金の採択】①申請書の書き方説明会を開催。②科研費申請アドバイザーによる個別相談と申請者の個別レクチャーを実施。	研究業績データの運用方法を検討する。	(目標) 100% (実績) 66%	・研究業績管理の作成について、1月10日(日)にいわきキャンパスの教職員へ通知し68%の教職員が業績管理ファイルに業績を格納した。	・各個人の主な研究業績は、常に大学のホームページで公開し管理されており、研究業績管理として別冊のファイルを作成することは教員の負担であったため、負担軽減を目的として、学部長、研究科長の意見を踏まえた上で、令和7年度以降は別冊の研究業績管理を実施しないこととした。	(目標) 100% (実績) 98.8%	・外部研究費の公費案内を教員へ随時周知した結果、外部研究費を8件獲得した。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	(目標) 100% (実績) 66%	
								翌年度4月	総務課	(目標) 15% (実績) 15.8%	研究業績の管理は毎年100%を達成した。【外部研究費の獲得】①研究費公費情報の収集。②研究費公費案内をGaroonで周知し申請を促す。 【競争的資金の採択】①申請書の書き方説明会を開催。②科研費申請アドバイザーによる個別相談と申請者の個別レクチャーを実施。	研究業績データの運用方法を検討する。	(目標) 20% (実績) 10.8%	・研究業績管理の作成について、1月10日(日)にいわきキャンパスの教職員へ通知し68%の教職員が業績管理ファイルに業績を格納した。	・各個人の主な研究業績は、常に大学のホームページで公開し管理されており、研究業績管理として別冊のファイルを作成することは教員の負担であったため、負担軽減を目的として、学部長、研究科長の意見を踏まえた上で、令和7年度以降は別冊の研究業績管理を実施しないこととした。	(目標) 23% (実績) 12.2%	・外部研究費の公費案内を教員へ随時周知した結果、外部研究費を8件獲得した。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	・外部研究費については、研究費募集の案内を学内に随時周知している。 ・研究業績管理については、同様の内容を大学HPの教員紹介に掲載していることから、2024年度より、ファイルによる業績管理を中止し、その内容で代替することとした。現状では、98.8%(4/5)の教員(助手を除く)について、業績を表示している。 ・科研費の採択率向上のため、申請書の書き方説明会や個別相談会を実施した。採択率は目標を下回ったが、申請数は過去最高の41件となった。	(目標) 23% (実績) 12.2%	
								11月	Dx推進委員会	(目標) 65% (実績) 41.4%	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 65% (実績) 40.7%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%まで増加しているが、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。 ・IoTシステム利用率については、実行後で発生する障りのについて、回避策を確認した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%まで増加しているが、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。 ・IoTシステム利用率については、実行後で発生する障りのについて、回避策を確認した。	(目標) 85% (実績) 40.7%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	(目標) 90% (実績) 62%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	(目標) 90% (実績) 62%
戦略Ⅱ	(4) 施設等整備計画	・学部 ・教務学生課 ・総務課 ・Dx推進委員会	・遠隔講義やIoT技術を活用した授業を実施するための環境を整える。 ・施設修繕計画を則り、教育に支障のない適切な整備を進める	情報/IT ・IT委員会	ネットワーク・無線LANの利用状況に関する満足度調査	◎	11月	Dx推進委員会	(目標) 65% (実績) 41.4%	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 65% (実績) 40.7%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%まで増加しているが、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。 ・IoTシステム利用率については、実行後で発生する障りのについて、回避策を確認した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が前年の35.4%から40.7%まで増加しているが、前年度1月に行った増強工事の結果が反映されたものになっている。 ・IoTシステム利用率については、実行後で発生する障りのについて、回避策を確認した。	(目標) 85% (実績) 40.7%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	(目標) 90% (実績) 62%	・無線LANについては、学内ネットワーク全体での無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	・無線LANについては、年度末に追加で実施した無線LAN利用満足度は満足が5段階評価で前年の31.0(63.4%)から31.0(62%)へ、増強2.98(59.6%)から3.05(61%)へとなり、大きな変化はなかった。 ・IoTシステム利用率については、アンケート設問の検討のみで終了した。	(目標) 90% (実績) 62%	
							11月	Dx推進委員会	(目標) 20% (実績) 未実施	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 20% (実績) 未実施	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 20% (実績) 未実施	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 20% (実績) 未実施	無線LANの満足度調査の結果、満足度41.4%、不満35.8%となった。半導体不足の影響により予定した増強工事や年度内に入行ない状況が懸念されている。 【IoTシステム設備利用率については、実施前に、調査対象教室の利用を推進する取り組みを行う方針とした。	年度末に実施した無線LANの整備についての満足度調査および、追加整備を実施する。 施設整備については、対象教室利用向けアンケートの実施を行う。	(目標) 20% (実績) 未実施	
							11月	Dx推進委員会	(目標) 50% (実績) 71.3%	学生満足度調査の内容を更直し、全学年を対象として実施した結果、満足度71.3%であり、今年度の学生満足度調査の結果を分析し、学生生活委員会の観点から、学生生活委員会の改善を計画、実行。 ・保護者の満足度調査では、回答率が3割を超えていたため、プラットフォームのe-learning for Parentsのログイン率を上げる	最終的な目標値である70%引き続き学生満足度調査を実施し、結果から学生生活委員会の改善に向けて、最終的な目標値を達成することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 50% (実績) 71.3%	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 55% (実績) 68.1%	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 60% (実績) 68.6%	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 60% (実績) 68.6%	
							7月	学生生活委員会	(目標) 調査計画策定済 (実績) 調査計画策定済	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 調査計画策定済 (実績) 調査計画策定済	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	・令和5年度いわきキャンパスの学生満足度調査は回答率が68.1%で昨年度より増加した。 ・学生生活委員会の調査は、学生生活委員会で連携して実施した結果、個人・保護者満足度調査の回答率が低かったため、実施時期を再度検討することとした。 ・引き継ぎを社会事務局と協力の上、父母から得られた意見に対して対応することと継続して大学の教育活動の理解を得られるようにする。	(目標) 調査計画策定済 (実績) 調査計画策定済							
戦略Ⅱ	(5">(																					